

# インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) コマザワダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) マツダゼミナール
駒澤大学	経済学部	松田ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) オセキハン	フリガナ) ハギワラカエデ	5人	無
お赤班	萩原楓		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

## 研究テーマ (発表タイトル)

再配達削減プロジェクト

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

宅配ロッカーを大学内に設置し、学生に利用を促すことで、自宅で不在であっても1回で荷物を受け取ることができ、再配達の削減につなげる。

### 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

インターネット通販の普及により宅配便の取扱量が年々増加し、それに伴い再配達になる荷物も増加している。荷物を受け取ることができなかった際、消費者が1週間以内に宅配業者に連絡をすると無料で再度届けてくれるという「再配達」というサービスは消費者にとっては便利なサービスであるが、人手不足という問題を抱えている宅配業者にとっては作業の効率が悪くなるため大きな問題となっている。再配達により発生する社会的損失は、主に労働時間の増加とトラックが排出するCo2の増加が挙げられる。労働時間の増加の側面からみると、年間約1.8億時間もの時間が再配達に費やされており、他方で再配達のトラックから排出されるCo2は年間約42万トンにまで膨らんでいる。これは杉の木約1億7,400万本の年間Co2排出量に相当する。現在、配達数のうち約2割の約7億個が再配達になっているという現状がある。再配達が増え続けることで生じる問題を解消す

る方法として、消費者へのコストの転嫁も考えられるが、それにより今後送料の値上げや再配達の有料化になる可能性がある。かかる問題意識を踏まえると、自宅以外の受け取り方としてコンビニでの店頭受け取り、駅のロッカーでの受け取り等さまざまな方法はあるが、それらの利用率は決して高くはない。したがって、大学でも宅配便を受け取ることができるようになることで、このサービスを利用する学生が一定数存在していると考えられる。

### 3. 研究テーマの課題

近年、「再配達」という問題をニュースや新聞で目にする機会が多くなっている。私たちはこの問題に関して「再配達に対する問題意識が低いこと」が主な要因であると考え、消費者が宅配便を利用し再配達になってしまっても「再配達は手続きをすれば無料で何度も来てもらえる」という認識が強いため再配達に対する問題意識は低いと考える。

それを解決するため自宅以外の受け取り（コンビニ受け取り、駅などのロッカーでの受け取り、職場での受け取り）があること認知してもらい利用してもらう必要がある。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

大学内にロッカーを設置する

宅配業者は宅配便の住宅を一戸一戸訪問せずに荷受人が集まっている学校にまとめて配達することができ、配達の手間が減り、作業を効率化することができる。

忙しく家で配達を待つのが困難である利用者は、職場である学校で荷物を受け取ることができる。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

具体的な活動内容は2つある。

一つ目は駒澤大学に宅配ロッカーを設置すること。お赤班独自のアンケートで「大学内に宅配ロッカーを設置した場合、利用しますか。」との質問に、150人の一人暮らし世帯の学生が84.6%はいと答えた。また、150人の実家暮らし世帯の学生が56.1%はいと答えた。この結果を踏まえ、駒澤大学に通う学生は全員利用できるが、主に一人暮らし世帯の学生が利用すると考えられる。

二つ目は宅配ロッカーの横や食堂、その他看板設置可能な場所に再配達問題についての問題意識を持ってもらえるような看板を置く。問題意識を持たせることによって、自宅以外で荷物を受け取れる既存のサービスを利用し、再配達になることなく荷物を受け取ることができるようになると考えられる。

### 6. 結果や今後の取り組み

大学内にも宅配ロッカーの設置をすることで、利用者の受け取り方の多様化を図れる。生活環境に適応した受け取り方ができるようになることで、自宅で受け取ることが困難な学生に対する再配達の削減を目指す。またこのプロジェクトを他大学に広めることで、すくなくとも大学生が対象の再配達を減らすことができる。

大学内で宅配ロッカーを利用し、自宅以外での受け取り方法の便利さを知ること、学生が将来的にも自分のライフスタイルに合った受け取り方を選択する可能性が上がるが見込まれる。

### 7. 参考文献

角井亮一『トコトンやさしい 戦略物流の本』日刊工業新聞社、2005年。

中田信哉『宅配から物流管理まで物を動かすしくみのすべて』日本実業出版社、1986年。

角井亮一『物流がわかる』日本経済新聞出版社、2012年。

国土交通省「COOL CHOICE できるだけ1回で受け取りませんかキャンペーン～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～」

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/butsuryu/>（最終アクセス日 2017年9月27日）

Panasonic 『「宅配便の再配達がない」まちをつくろう。宅配ボックス実証実験』

<http://sumai.panasonic.jp/exterior/takuhai/combo/project/>（最終アクセス日 2017 年 9 月 27 日）

国土交通省「平成 27 年度 宅配便等取扱個数の調査及び集計方法」

<https://www.mlit.go.jp/common/001139889.pdf>（最終アクセス日 2017 年 9 月 27 日）

パックシティジャパン「PUDO（プドー）ステーション」

[http://www.packcity.co.jp/our\\_service](http://www.packcity.co.jp/our_service)（最終アクセス日 2017 年 9 月 27 日）

#### <企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

**↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください**